

会 議 録

会議の名称	第8期7月期 小金井市地域自立支援協議会 合同部会
事務局	福祉保健部 自立生活支援課、小金井市障害者地域自立生活支援センター
開催日時	令和5年7月12日（水） 午後8時25分から午後8時50分まで
開催場所	小金井市役所 第二庁舎 801会議室
出席者	<p>【委員】※各専門部会の部会長のみ 吉岡博之副会長（相談支援部会長）石塚勝敏委員（社会参加・就労支援部会長）佐々木宣子委員（生涯発達支援部会長代理）</p> <p>【事務局】 自立生活支援課長 自立生活支援課障害福祉係長 自立生活支援課相談支援係長 自立生活支援課相談支援係主査 小金井市障害者地域自立生活支援センター</p>
会議内容	第8期 7月期 小金井市地域自立支援協議会 合同部会のとおり

第8期 7月期 小金井市地域自立支援協議会 合同部会 会議録

(副会長)

それでは早速ですが合同部会をはじめさせて頂きたいと思います。
専門部会から報告をお願いします。

(社会参加・就労支援部会長)

社会参加・就労支援部会からでいいですか

社会参加・就労支援部会の方ですけども、ヒヤリングの結果については報告させていただいて特段問題なく、計画にかかる課題の確認のところでは、こちらが私を含めて3人だけだったので、その中で話をしていきました。課題整理シート1のところでは広報啓発のところに出てきた話としては課題についての内容は確かにそうだろうと。ただ課題解決していくためにどういったことが必要なのかというところでは障がいの理解といったところでは、単なる座学的な勉強とかそういったものではなく、実際に障がいのある方と日常生活の中で交わるといふか、一緒に生活をしていくといった場面が、やはり幼少期のころから必要なだろうと。そういった実体験がない中で、理解、理解といってもなかなかそこは具体的な理解に繋がらないだろうということで、生身で感じられるような体験が必要だろうといった話が出ました。

二番目のところでは社会参加の促進の中で、一つ話として出たのは80-50問題の中で「50」が障がいのある方だった時に今まで何のサービスも使ってこなかった、繋がってこなかった方々が、このところに出てきていると。そういった、今まで全くサービスに繋がっていなかった方、親が必死に抱えてやってきたが親がいよいよ高齢で大変な状況になってきて、その「50」の課題が出てきていると。そういった「50」を受け入れられる社会づくりが必要なんじゃないか。元々そういった状況にならないようにすることがまずは大事だけれど、やはり現実問題としてそういった方がいるというところへの対応が必要なんじゃないかという話が出ました。

三つめのところでは安心して暮らせる仕組みづくりのところでは、各種サービスが整ってきているのは確かだという中で、ただやはり利用するための手続きがちゃんとできない、必要なサービスにたどりつけない、そういった権利擁護的な視点が更に必要なんじゃないかということが出ていました。

四つ目の所では、やはり最後の防災のところ、災害のところの話題がちょっと出たのかなと思います。災害の事については予め準備するところでの必要なことをやっていかななくてはいけないけれども、実際になった時はやはり事前に用意されたものだけで解決するわけではないという事をやはり理解していく

必要があるのだろうと。要するにその場その場で適切な判断をしていかなければならないという風なことが出てくるよと、しっかりと準備をすることは大事。でも、そのことだけで解決するわけではないよという風なこともちゃんと伝えていくことが大事なんじゃないかという話になっていました。

あとはその住まいの確保については、ここで課題に出して頂いていることは非常に重要ですけれども、そういった住まいの整備というのは現実問題として計画にどのように落とし込んでいくのかが大きな課題になんだろうというふうなことで話が出ていました。重要な部分ではあるけれども実際の計画としてどのように表現していくのか難しいところがあるのではないかという話題が出ていました。

あとは家族の防災パンフレットについては特段出して頂いた意見、事前に出した検討結果については、意見はなかった感じですが、一応私の方で伝えさせていただいた中では50音指文字表の事とか、そういったところを事前の打ち合わせの時の話をさせて頂きました。今回のパンフレットそのものは事前に予め家庭内で読んでおいていただくもので、この50音指文字表はどちらかというところと実際の現場で使う時のことを想定してのお話として出ているのかといったもので、それは別途現場で使うべきツールというのは考えたほうがいいのではないかという事を話させていただき、特にそのことについてご要望等はなかったという事になってます。15ページの避難の時に持って行くものの中のくだりの文章、今回検討した話については、そこも特段意見がなく確かにその通りですねという事で頂いております。そんなところで一応終了しております。以上です
(副会長)

ありがとうございます。

それでは生涯発達の方よろしく申し上げます

(生涯発達支援部会長代理)

加瀬先生がお休みで、代理で私佐々木が進行を務めさせていただきました。

報告事項については特に質問等なくヒアリング結果については確認しました。

協議事項の課題についてですが

一つ目の市民一人ひとりの理解と交流を育む意識づくりについては特に特別なご意見は出ませんでした。

二つ目の障がいのある人の社会参加に向けた自立の基盤づくりのところでは、二つ程意見が出ました。感想的なものは皆さんおっしゃって頂いていたのですが、文章に対する意見としては、(1)の障がい児保育・療育・教育の所の一番最後の段落のところで「また地域の中では就学前から卒業後の生活まで見通して、学校教育・子育て・福祉・就労部門との連携を密にし」と出ているのですが、ここ

に医療という言葉を入れた方がよいという意見が出ました。確かに医療があった方がいい、抜けている感覚があるかなと思いますので、皆さんご意見には賛成でした。

もう一つは(2)の社会参加の促進のところで、やはりご意見の趣旨としては社会参加をしていくために、小さい時からの学びのようなものですかね、地域参加していくための、そのご自身の学びみたいなものをすすめなくちゃいけないというご意見というか感想が出て、社会参加の促進というところをもう少し膨らませると言うか、何かするにはどうしたらよいかなどというところでお話になりました。ご自身の事だけじゃなくて、二段落目に職場の人間関係が難しいというのが上がっているのも、実際のご自身の経験の中でとか見聞きする中で感じているというのもあって、社会参加の促進というのも何かこう、もう一声強化できないかという感じの話だったのですが、そのご本人自身が社会参加に向けてというような趣旨に捉えると先ほどの(1)の一番最後のあたりで「社会参加を見据えて」という言葉を一つ入れておくことで、小さいころからの取り組みが社会参加に向けての大事な取り組みにもなるんだというところに繋がるのかなというところでお話になってました。

三番目のところで障がいのある人が安心して暮らしていける仕組みづくりのところですが、ここは色々意見は出ましたが、特に文言を整理してとか、追加してというのはなかったです。少し出たのは3番目の相談支援・情報提供のところで、セルフプランの方もいるという、特に学齢期のお子さんだと多いのかな、あと幼児さんとかでも結構聞くのかなと思いますが、セルフプランでも不利にならないのかしらという話題を聞くことがあるので、情報提供体制を強化することが大事だという話になりました。

最後の4番目の誰もが気持ちよく共に暮らせる環境作りの所では少し言葉について強めてというか、こうした方がいいという意見が出まして、一番下4の(1)自由な移動の確保のところでコミュニケーション手段の確保が大事ですという文言が出てきていて、これがすごく大事だろうということになりました。ただ、どうしてもこの手段の確保だけだと、その方自身の手段の確保と捉えかねないし、周りの人達とか例えば駅員さんとかそういう人たちがその利用について理解しておくのが大事というところで、一人一人の特性理解みたいなものを強調するのがいいのか、コミュニケーション手段自体の理解を深めていくほうがいいのかと少しなったのですが、この(1)の最後の段落の、「また、視覚・聴覚障がいのみならず、様々な特性や一人一人の状況」のところに、「状況を理解し」とかこの一言なんですけれども、特性理解みたいなものを含めた上で、コミュニケーション手段の理解を深めていくことが少し拡がりがあるんじゃないかなと意見が出ています。なかなか本人だけでなく周囲がというところがポイントで

した。

最後の追加課題のところ、防災のところにも意見が出まして、障がいを持った方々へ配慮した避難所のことが話題に出たのですが、避難所の設営とか設置とか取り組み、支援とか大事なんだけどなかなか初めからそのことを大切だと思って制度とか避難所設営とかははじめから組み込まれているところが必要だよねというご意見が出て、皆さんもそうだねという話になったのだけど、それをどのように表現したらよいのだろうという話になりまして、一番最後の行の地域全体でといいところに言葉として込められているのだろうけど、上の委員意見の冒頭のところに当事者からの提案も大切というところも受けて地域全体でというところの前に入れるのかその段落の今後ものすぐに入れのか、言葉使いだと思うんですけど当事者や関係団体の意見も取り入れてとか、関係団体をどういう文言をどういう言葉で統一しているかによると思うんですけど、障害福祉団体なのか障害者団体なのか関係団体とした方がいいのかわからないですが、とにかく意見を当事者サイドの意見、関係者サイドの意見を取り入れるというのを入れた方がいいのではないかというご意見が出ました。

後はパンフレットの意見についても追加等はなかったです。

以上です。

(副会長)

ありがとうございます。

相談支援部会のまとめの方をお願いします

(事務局)

それでは事務局の方で報告致します。

計画の方ですが関係団体のヒアリングの結果については特に意見は出ませんでした。

続きまして、計画の関係ですが、一番最初の方意見が出たのは民生委員の欠員についての意見が出たのと警察への啓発、精神障がいのある方の警察の対応とかの意見が出ました。警察への啓発も大事なんじゃないかという意見が出ております。

二番目ですけども、障がいのあり方というのは障がい児の方の場合はすぐに見つかる障がいもあれば健診で見つかってそこからスタートする障がい等もありまして色々障がいのあり方が違うよねと言った意見が出ました。

医療的ケア児の話も出まして、子どもの支援のことが書いてありますが、親の支援の方も触れたほうがいいのではないかという意見が出ました。

三番目ですが、福祉相談窓口の活用の話が出ましたが、土曜とか日曜とか夜も相談を受けられる所を計画に入れたほうがよいではという話が出ました。

四番目です。災害の関係ですけども災害の時は情報確保というのが障がいのあ

る方では難しく物資の支援とか情報とかを計画に入れるといいのではないかと意見がありました。

あとですね、医療的ケア児の話も出まして、衛生面が心配だから避難所に行ったら却って衛生状態が悪くなって自宅に籠ってしまう人、そういった人の支援はちゃんと行き届くのかな、そういったところとかもちゃんと計画に盛り込んだ方がいいのではないかという意見が出ました。障がいに応じた避難所を作るものの一つの考えではないかという意見が出たところでございます。

計画に関しては以上で、続きましてはパンフレットですけど、部会長、特にこれユニボイスかSPコードどちらかという話が出なかったですよ

(副会長)

スマホのアプリで使える方が一般的で広く使えるんじゃないかという話でした

(事務局)

すみません。ありがとうございます。そういう意見が出ました。

最後に相談支援部会独自で地域生活支援拠点の緊急の定義について話をしたいと言ったのですが、この時点で予定時間を超過しておりましたので、次回まで検討をお願いし提案をただけになっております。

以上でございます。

(副会長)

なにか補足等ありますでしょうか

(社会参加・就労支援部会長)

ユニボイスの件ですが、スマホで簡単に使える方が今後色々な場面で使えるという事で、どこでも使えるだろうけど、当事者の声を聞いた方がいいのではないかと視覚障がいの方に、皆さんご年齢が上の方なので使っているかどうかという事はあるのですが、ご意見としては伺ったほうがいいのではないかと話をしました。

(生涯発達支援部会長代理)

生涯発達部会でも、人数が多い方がいいのかもしれないけど、今後どちらが主流になっていくとか専門的なのとか、調査を参考にしないとわからないかなと思ったんですが、多数の人が使うものの方がいいのではないのでしょうか

(事務局)

実は視力障害者の会には一回聞いているのですが、会自体の人数が少ない、母数が少ないのと、あと言っていたのは、会長さんに連絡したのですが、会長自身は読み取り機を持っていて、それだと形でコードに合わせる位置がわかるらしいです。ただスマホだとスキャンしなければいけないので、目の不自由な方にとって使えるのか、我々一般人からするとアプリで使えて便利だなと思いますが、本当に必要な人が使おうとしたときにどうなのかと、そこは気にかかるところで

はあります。

(副会長)

前回話をしていたパンフレットの手話については、啓発のために載せる事は必要だとおっしゃる委員がいました。その場では結論が出ませんでしたので、持ち帰りますということになりました。前に話したとおり、避難所に設置、準備しておけばいいのではないかという話をしましたが、なかなか納得が得られませんでした。

(社会参加・就労支援部会長)

そうするとツール関連をこれだけでなく載せていく、啓発なんだという事で色々な物を載せなくてはいけなくなってくる。あまり分厚くはしたくない。読み物としてはできるだけコンパクトで、ちゃんと読んでもらえるものがないのではないかという意見がこちらでは出ていた。それで量が増えるよりは、それはまた別でちゃんと使えるように準備をするとした方がよいのではないかということでこちらではまとまっています。

(副会長)

その委員には実際防災パンフレットをもって逃げるときに50音順手話でお話しをする時間はないと思いますと、それなら避難所の方に整備してあったほうが使い勝手がよろしいのではないかと伝え、それはわかったと。ただしそれが目的ではないんだという話になったので、この話は引き取らせて頂きました。

(副会長)

はい。では各専門部会からの報告は以上で。事務局からは他にありますか。

(事務局)

大丈夫です。

(副会長)

はい。その他でなければ、次回の開催日程等をお願いします。

(事務局)

次回の開催は8月23日全体会、801会議室です。

それで、先ほどの課題整理シートは、部会長預かりで、ここで集約しようと思いましたが、本日会長がいらっしゃらないので、今日出た意見は少し事務局で纏めさせていただいて、21日にワーキングがあるので、その時にもう一回ちょっとこんな感じでいいでしょうかと諮りたいと思います。

(副会長)

わかりました。では21日のワーキングの場で共有したいと思います。

お疲れ様でした。